

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

歴史を重ねた伝統を世代を超えて発展させるため、これまで受け継いできた「自主・自律」の精神に富み、社会的責任の自覚の下で「自由」を発揮するとともに、世の中の変化に対応して既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合し、地球的視野から主体的に行動でき、積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間を育てる。そのため、次の理念に基づいて、下記のような学校づくりを推進する。

◎ 本校における教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な社会の形成者として、個人の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を備えた、責任ある人間の育成を期して行う。

1. 一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って府民の期待に応える学習活動を築く。
2. 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。
3. 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

2 中期的目標

○ 伝統を引き継ぐとともに、時代の要請に応じた新たな学校づくりにも取り組むために、以下のことを行う。

①「自主・自律」の精神で、主体的に課題に取り組み創造性を発揮する姿勢を育む教育の発展。②地球的視野を持った生徒の育成に向けた教育の開発。③言語活動、理数教育、外国語教育の充実。④ユネスコスクールの活動を核とした国際教育の推進。⑤新たな教育課題への取り組みと本校の伝統とを融合させた積極的かつ効果的な教育の追求。⑥全日制・定時制両課程間の緊密な連携による円滑な運営と教育効果の向上の探究。⑦生徒の学力ならびに教員の授業力向上のための組織的な研究。⑧既存の価値観と新規の価値観を巧みに融合して積極的かつ創造的に社会に貢献できる人間の育成に向け、経験の差を乗り越えて教員同士が相互に高め合う教員自身の意識改革。

1 一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って、府民の期待に応える学習活動を築く。

- ア 生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。
- イ 幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、それぞれの進路実現ができる力を育成する。
- ウ 体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
- エ 世界に目を向けた広い視野で自らの生き方を考える教育に取り組む。
- オ 進路指導年間計画を充実させ、一層の情報提供に努めるとともに、各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。
- ※ 授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断において、「自分の学力向上」「授業態度」の積極定回答75%以上をめざす。

2 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。

- ア 「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育む。
- イ さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育みともに高めあう力を育むとともに、市民として公民意識の育成を図る。
- ウ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図る。
- エ 人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
- ※ 1年次の部活動加入率 95%以上の維持を図る。オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。
- ※ 生徒会選挙の投票率（自主投票）85%以上を維持する。

3 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。

- ア 学力の充実を基本に置き、学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させようとする生徒を育成する。
- イ 授業での取組だけでなく、留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。
- ウ ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
- ※ 普通科高校として3年間を通じて生徒に幅広く学ばせ、H28年度までにセンター試験出願時における6教科7科目の割合70%以上をめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断で、生徒の自主・自律を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>【学校生活全般】学校へ行くのが楽しいという生徒は91.5%(H27と同)、学校は生徒の話をよく聞いてくれると思う割合は91.3%(H27,86.7)で高率。自主自律を重んじる校風を尊重するべきと考える保護者は94.9%(H27,95.9)に達し、学校生活全般の肯定度は高い。【授業】授業が自分の学力向上に役立っていると考えている生徒は H26:70.1%⇒H27:79.2%⇒H28:80.7%、思わないが H26:29.0%⇒H27:19.3%⇒H28:18.9% となって改善の方向。保護者は子どもが授業の進捗についていけていると思う割合が71.6%で、心配を感じている様子も窺える。【進路指導】進路に関する情報の提供を肯定的に評価した生徒は82.2%で、保護者は82.1%が適切としたが、更なる改善をめざしたい。【生徒会・部活動】主体的に取り組んでいる生徒は76.5%で、数値がより向上するための方策の検討が必要。【情報提供】保護者について、教育相談:45.5%(H27,51.3)、健康指導:65.4%(H27,73.7)と、知らないの回答があるのは、昨年度よりは改善したものの検討が必要。</p> | <p>第1回 :平成28年度学校経営計画と入学者選抜や生徒状況等の近況報告 ・自主・自律、自学・実践等のモットーの元、学力向上に効果が出る学習を進めて欲しい。 ・指導要領の改訂、大学入試改革等、学力観が変化している現状に合わせた指導が欲しい。 ・高校では、単なる知識習得だけでなく、自分で考えて学問するレベルまで高めて欲しい。 ・グローバルな視点を持った取組みを進めて欲しい。</p> <p>第2回 :生徒の現状、「骨太の英語力養成事業」の状況、ユネスコスクール・進路関係 ・学校外で活躍する生徒が増えたのはよい傾向で、それをどう波及させるかが課題だ。 ・中学でも取り組まれているアクティブ・ラーニングの取組みを進めて欲しい。 ・地震等の非常時の安全対策を図って欲しい。</p> <p>第3回 :学校教育自己診断の結果について ・昨年度と数値はほとんど変わらず生徒が学校生活に積極的に関わっていることが分かる。 ・進路意識が学年を追って上がっており、特に3年生で顕著なのはよい傾向だ。 ・部活動は学年が上がるごとにより意欲的になっている。1年生の「もっと休みたい」という意見の分析。 その他、「骨太の英語力養成事業」、ユネスコスクール、藤蔭講座等について。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--|---|--|--|--|
| 1 一般的な教養を高め、専門的な学問の基礎を築き、生徒の希望進路の実現を図って、府民の期待に応える学習活動を築く。 | <p>○幅広い学びの中から自らの得意を伸ばし、主体的な学びの姿勢を引き出し、積極的意欲的に学習取り組む力を育成する。</p> <p>○各家庭と連携して長期的視点を持った進路指導の充実を図る。 (本校におけるアクティブラーニングとキャリア教育の追求)</p> | <p>ア、自ら調べ、考え、知識・情報をもとに課題を発見して解決する力、そして自ら思考して判断して、表現・発信する力を育む。それによって、主体的積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。(春日丘版アクティブラーニングの研究と実践)</p> <p>イ-1、学力のより高い伸長につながる教育課程を研究開発し、進路保障の充実を図る。 イ-2、サタデーセミナー(土曜講習)の充実。 イ-3、プロジェクターや書画カメラ等を活用して、授業の機動性と能率を高める。 ウ-1、充実した総合学習等において、協力して調べてまとめ、そして発表する学習によって、ともに高めあう活動の習慣を身に付けさせる。 ウ-2、理数教育推進のためのサイエンスツアーの実施(年間2回以上、宿泊研修を含む)。 エ、「骨太の英語力養成事業」による授業改善やTOEFL講座等によって、グローバルな視点に立った実践的な英語力の育成をめざした教育を構築する。 オ-1、進路部と学年が連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。 オ-2、卒業生による「藤蔭講座」の継承発展を図る。 カ、教師力の授業力の向上を図る(授業研究の充実、各種研修等の活用)。 キ、相互の授業を公開等によってICT化についての授業手法の研究と課題解決を取組む。</p> | <p>ア、学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」「授業態度はどうか」の積極的的回答75%以上(H27:79%) イ-1、授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」の平均3.06以上(H27:3.06) イ-2、サタゼミの年間10回開講を確保(H27:10回) ウ-1、学校教育自己診断「ホームルーム活動は活発だ」の積極的的回答75%以上(H27:74%) ウ-2、2回以上のサイエンスツアー実施(H27:2回) エ、TOEFL講座実施とiBTチャレンジ38点以上10%の達成。(H27:10%) オ-1、学校教育自診断「(進路に係る)必要な情報をよく提供」の積極的的回答80%以上(H27:82%) オ-2、「藤蔭講座」アンケートにおける満足度80%以上 カ、教師間の授業見学や授業研究を2回以上実施 キ、職員研修の実施</p> | <p>ア・授業が自分の学力向上に役立っていると考える生徒は80.7%で昨年度より向上した。(◎) イ-1、授業アンケート「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業を受けて、知識や技能が身に付いた」の平均3.08(H27:3.06) (○) イ-2、サタゼミは10回実施。外部模試も含めて効果的であったが、実施形態について今後検討が必要。(◎) ウ-1、自己診断「ホームルーム活動は活発だ」の積極的的回答70.7%(△) ウ-2、第2回のサイエンスツアー(台風接近で中止)。 エ、TOEFL講座実施とiBTチャレンジ38点以上12名。(15%) (◎) オ-1、学校教育自診断「(進路に係る)必要な情報をよく提供」の積極的的回答82.2%。(◎) オ-2、「藤蔭講座」アンケートにおける満足度90%。(◎) カ、教師間の授業見学や授業研究を2回実施 (○) キ、職員研修の実施(4回シリーズ1、授業見学会と検討会1、他2) (◎)</p> |
| 2 志を高く進取の気概を持ち、豊かな人間性と伸びやかな個性を発揮する姿勢を引き出す特別活動の中で、生徒の主体性を育む伝統を引き継ぐとともに、時代に即した新たな伝統を創りあげる。 | <p>○「自主・自律」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向けて意欲的に活動する力を育て、さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神及びともに高めあう力を引き伸ばしていく。</p> <p>○生徒会活動・ボランティア活動の活性化等によって安全安心な学校づくりを推進する。</p> | <p>ア-1、ICT機器の活用力の育成や情報モラルの向上を図る。 ア-2、生徒図書委員会の選書活動や読書マラソン等の他、読書指導の充実に全校で取り組む。 イ-1、部活動を通じて意欲的な学校生活を創り出す力を育成する。 イ-2、音楽会や美術展の他、生徒の制作、表現活動を活性化する方法を一層工夫する。 イ-3、挨拶の励行と遅刻指導の更なる充実 ウ、体育祭や文化祭等の生徒会活動を通じて、本校の歴史と伝統を感じ取るとともに、新しい歴史を築いていく自覚を持たせる。 エ-1、臨床心理士と府のスクールカウンセラーの配置を踏まえて、教育相談体制を整え、教員の力量の強化を図る。 エ-2、学校安全担当者を明確にし、学校保健委員会や、保健部、生徒部並びに三師や外部専門家が積極的に連携できる体制を推進する。 エ-3、全教職員が協力して規範意識を醸成する。</p> | <p>ア-1、ICT機器を活用したプレゼンテーションに取組む授業を実施して公開する。 ア-2、学校教育自己診断の読書率向上で40%以上。(H27:37%) イ-1、1年生での部活動の加入率95%以上。(H27:96%) イ-2、音楽会や美術展等の充実 イ-3、遅刻数年間2200回以下。(H27:2507回) ウ、学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画65%以上(H27:48%) エ-1、学校教育自己診断で相談対応の満足度(保護者)70%以上(H27:65%) エ-2、安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる会議を年間3回以上開催する。 エ-3、学校教育自己診断「話をよく聞いてくれる」の積極的的回答85%以上(H27:86%)</p> | <p>ア-1、ICT機器を活用したプレゼンテーションに取組む授業を実施して校内での授業見学会を実施。(△) ア-2、学校教育自己診断の読書率向上で40.4%。改善策の検討は必要。(◎) イ-1、1年生での部活動の加入率98.1%。(◎) イ-2、音楽会(2/10)、美術展(1/28-29) イ-3、遅刻数年間2784回。(△) ウ、学校教育自己診断で生徒会活動や行事への主体的参画76.5%。(◎) エ-1、学校教育自己診断で相談対応の満足度(保護者)59.4%。(△) エ-2、安全衛生、学校保健、学警連携等に関わる会議を年間2回開催。(△) エ-3、学校教育自己診断「話をよく聞いてくれる」の積極的的回答91.3%。(◎)</p> |
| 3 自ら学ぶ意欲とともに、自ら考え表現する力と豊かな創造性を備えた人間の育成を、すべての教育活動を通じて行う。 | <p>○学習と部活動・生徒会活動・学校行事を両立させようとする生徒を育成する。 ○留学生との交流・部活動・海外研修と国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解や実践的な英語力の向上を図る。 ○ユネスコスクールの取組を様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。</p> | <p>ア-1、授業、学校行事、部活動、地域や関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに生き方やあり方を探求させ、生徒の社会性を育む。 ア-2、地元中学との連携の一環として、茨木市内の中学校と高校との交流サッカー大会を実施するほか、部活動等を通じて地域連携・交流・貢献の活動を発展させる。 ア-3、地元NPOや企業との連携をさらに深め、「カス(春)ピカ」を含む茨木市内清掃活動・家庭科での車椅子実習や保育実習等に引き続き取り組む。 イ-1、立命館大学等との高大連携の推進等、市域の教育力向上に貢献する。 イ-2、海外研修、国際交流の機会を提供し、留学生交流等、実践的な英語力の育成の機会を作る。 イ-3、地域のロータリークラブと連携し、海外からの長期留学生を受け入れる。 ウ-1、NIE活動を継承、発展させるとともに、ユネスコスクールの活動に取り組み、学校間のネットワークを利用した教育の活性化を図る。 ウ-2、東北派遣プロジェクトの成果を継承する。</p> | <p>ア-1、学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的的回答90%以上(H27:91%) ア-2、サッカー大会やおもしろ実験教室などの対中学、地域向け活動実施 ア-3、清掃活動(カスピカ)の継続、発展及び車椅子、保育実習の実施 イ-1、立命館大学や大阪教育大学との高大連携による事業の展開 イ-2、3、姉妹校等との国際交流や長期留学生の受け入れを継続 ウ-1、2、ユネスコスクール活動をより活性化して、他校との交流の機会を増やす。</p> | <p>ア-1、学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的的回答91.5%(◎) ア-2、サッカー大会やチャレンジ理科教室、おもしろ実験教室などの中学生、地域向け活動実施。(◎) ア-3、清掃活動(カスピカ)、クリーンキャンペーン、車椅子体験授業や保育実習を実施。(◎) イ-1、立命館大学や大阪教育大学との高大連携による事業で、生徒向けの作文コンクールやキャンパスガイド、教員向けの研修講座に参加。(○) イ-2、3、姉妹校(サウスウェスト高校)との交流を実施。新たにオーストラリア研修の実施に向けた準備を始めた。 ウ-1、2、アメリカ1人、韓国3人派遣。ユネスコ高校生主張全国大会10位以内、模擬国連全国大会出場。(◎)</p> |